

「大人力」⑥

思春期SOSが出たときこそ「大人力」が試されます！

子どもたちの幸せと人権に関わる問題に対しては、「わが子も近所の子も健やかに：ほうっておかない！」という構えで、「町ぐるみ目をかけ声かけ心かけ」ながら子どもたちの健やかな成長を支えていく「大人力」を発揮していきたいものです。今月で特集も最終回となりました。今回は、子どもたちが犯罪の被害者になった場合の接し方について考えてみたいと思います。

暴行や恐喝、強制わいせつ、傷害などの犯罪被害にあった子どもは、トラウマ（心の傷）やPTSD（心的外傷後ストレス症候群）に苦しみます。そんな子どもを支えてあげられるのは、保護者や周りの大人以外にありません。「接し方」のポイントを知っておくことがとても大切です。

* 安心させる

犯罪の被害者になった子どもは、恐怖や不安、絶望、孤独、怒り、復讐などの心理にとらわれ苦しみます。「怖かったね」「腹が立つね」「やる気がしなくなるよね」「わかる、わかる、その気持ち」と共感し、支持することで、子どもの心理が決して特異なものではないことを理解させましょう。まずは心身をおちつかせることが大切です。

* 責めない

「自分に落ち度があったから犯罪に巻き込まれたんだ」と子どもは自分を責めています。「親の言うことを聞かなかつたから……」とか「あんな場所にいたから……」といった子どものミスを指摘するような言葉は、安心させるどころか、子どものトラウマを更に深くしていきます。

* 耳を傾ける

子どもは話をすることで、自分なりに心の整理をし、これからのことについて考えます。子どもが話しているときは、話の腰を折らずにしつかり耳を傾けましょう。

* 一緒に過ごす

子どものそばにいてあげることが、大きな支えになります。子どもは、大きな支えをやわらげるための、しばらくはできる限り行動ともにしましょう。

* 見守る

傷ついて気弱になっているときに、「早く忘れて元氣を出そう」「長い人生にとつては、ささいなこと」といった励ましは、子どもにとって逆に負担になってしまうこともあります。「無理に頑張らなくてもいいんだよ」とあるがままの状態を受けとめてあげましょう。

* 相談する

攻撃的・自虐的な言動が出てい

る場合は、放置しないで向き合い、きちんと対応する必要があります。もし、日常生活に危うさを感じるようなら、迷わず専門機関に相談しましょう。

子どもたちが犯罪に巻き込まれることのない安全な社会、被害者になることのない安心できる社会は、大人にとつてもすばらしい社会と言えるのかもしれないね。道は遠いかもしれませんが、理想を高く掲げ、日々の現実を心豊かなものにしていきたいものです。

